

「地域のひろば」編集室では、「ふるさとじまん」を紹介します。  
 皆様の地域の「ふるさとじまん」の写真とコメントをどしどしお寄せください。  
 お問い合わせ先 電源地域振興センター 企画調査部広報課 電話 03-5562-9730 FAX 03-5562-9802  
 e-mail kouhou@div.dengen.or.jp

# 電源地域から届いた ふるさとじまん

岐阜県 串原村

大好評！  
 日本でここだけの二大珍味

串原村は平成十四年七月七日にオープンした「くしはら温泉 ささゆりの湯」を中心に賑わっています。その温泉に隣接する「マレットゴルフクラブ」にオープン以来二つの特産品が誕生しました。その名も「トマト大福」と「中山太鼓」。

トマト大福はミニトマトを白あんでくるんだ大福で、トマトの酸味とあんの甘味の意外にさっぱりとした味わいが好評となり、平成十六年三月末日までに八万個（一日平均二百個）の販売を達成しました。



村の特産品を生み出した堀喜子さん

芸能「中山太鼓」岐阜県重要無形民俗文化財「をモチーフ」にしたとら焼で、中には特製さつまいもクリームが入っています。田舎の良さとお菓子の力強さを感じるお菓子でこちらも大好評発売中です。



中山太鼓とトマト大福

この二大珍味はいずれもマレットゴルフクラブの職員である堀喜子さんが村の特産品を利用した名物と考案誕生しました。



岐阜県串原村役場 総務課企画係  
 電話 0573-52-2111  
 URL <http://www.vill.kushihara.gifu.jp/>

宮城県 加美町

緑と水から生まれた  
 オリジナルブランドの数々

加美町（平成十五年四月一日に旧中新田町・旧小野田町・旧宮崎町の三町が合併）の地場産品は、豊かな自然に恵まれた環境、そして純朴な人々の思いに育まれ、まやかしのない本物の味わいに満ちています。鳴瀬川で獲れるイワナやヤマメ、アユ。うまい米と水、そして研ぎ澄まされた技によって醸し出される



やくらいビール



酒造り

日本酒。深い緑と清らかな水のまち加美ならではの、自慢の味です。

町内には、古くから「真鶴」「わしが國」「鳴瀬川」を醸造する三軒の造り酒屋があります。それぞれのお店が、真鶴原酒、瞑想水、夢幻など独自のブランドを展開しています。



宮城県加美町役場 商工観光課  
 電話 0229-63-6000  
 URL <http://www.town.kami.miyagi.jp/>

福岡県 芦屋町

小さくてもキラリと光るまち「芦屋町」

芦屋町は福岡県の北端に位置し、町のほぼ中央を一級河川の遠賀川が流れています。芦屋町の特産は、美しく豊かな自然です。特に玄海国立公園を望む海岸線は、県の天然記念物にも指定されているハマユウの群生地をはじめ、迫力ある奇岩が見事な荒々しい岩場や、白い砂浜など変化に富んでいます。そんな芦屋町の魅力をいくつか紹介します。



砂浜の美術展

九州北部を代表するイベント「砂浜の美術展」を誇る広大な芦屋海岸の砂を活用して、毎年八月下旬に行われるイベントです。土台づくりから始まり、約一カ月を費やして高さ八メートルのメイン砂像を中心に、三十数基の精巧な砂の彫刻が「北九州の湘南海岸」と呼ばれる芦屋の浜に出現します。

夜には砂像群がライトアップされ、音楽に合わせたレーザー光線と特殊花火のショーが、幻想的で魅惑的な空間をつくりあげます。五日間の期間中は、県内外から訪れるのべ二十万人の観客で賑わいます。



アシアヤミュージアム

茶の心を肌で感じる「丸屋釜の里」  
 茶の湯釜として名高い芦屋釜は、国の重要文化財です。より薄く、実用的に作られているばかりでなく、優雅な姿や文様にも定評があり、室町時代には各品として一世を風靡しましたが、桃山時代以降は途絶えてしまいました。その優れた技



芦屋釜

術で制作された芦屋釜を現代に復興させようと建設されたのが芦屋釜の里です。長屋門をくぐり抜けた園内には、約三千坪の日本庭園が広がり、四季折々の花と緑の中、点在する茶室や資料館、工房をめぐって茶の心に親しむことができます。



八朔の節句



福岡県芦屋町役場 企画財政課企画係  
 電話 093-223-0881  
 URL <http://www.town.ashiya.fukuoka.jp/>